



# 岐阜北週報

10月 新世代のための月間

□ 題 字	谷田 育子	□ 会 長	谷田 育子	
□ 例 会	毎週水曜	□ 副会長	岡田 一二三	2012-2013
□ 会 場	岐阜都ホテル	□ 幹 事	原尾 勝	No.1464
		会報委員長	小泉 宣昭	12.10.3発行

前回の記録	本日の予定	次回の予定
第 1463 例会 9/26(水) 長良川RCとの合同例会  担当：会長・幹事	第 1464 例会 10/3(水) 慶祝行事 クラブフォーラム(4) 卓話：岩田 勝美 様 担当：職業奉仕委員会	第 1465 例会 10/7(日) 氷見RCとの合同例会 於：氷見 「うみあかり」  担当：親睦交流委員会

## 会長挨拶【岐阜長良川RC 箕浦 洋和 会長】



岐阜清流国体が今週9月29日開催されます。当日私共長良川RC例会日ですがホテルの事情もあり、岐阜北RCさんとの合同例会を申し込みましたところ快く承諾頂きました。また会場設営・日時調整等谷田会長はじめ貴会員皆様の多大なご尽力感謝申し上げます。

今から47年前、昭和40年・1965年秋東京オリンピックの翌年岐阜国体がこの地で開催されました。47都道府県一巡して本年ここに再び清流国体が開かれます。47年前メインスタジアムでの最終炬火ランナーが”現岐阜県知事 古田肇氏”です。

当時私は1学年下で、古田さんは高校3年生生徒会長を務められ、全県の高校生を代表し選抜された、遠く仰ぎ見るまぶしい存在でした。来る開会式では間違いなく万感の思いがこもった素晴らしい挨拶をされると思います。

本日参席の皆様も今一度47年前、あの青空の下当時どのような状況で何をしていたかを思い巡らしてください。”バリバリ働いていた、

## 会長挨拶 続き

子供に手を焼いていた、ほやほやの新婚でした毎日勉強ばかりの学生です、にきびだらけの中学生でした、真っ黒になり外で遊んでいた、生まれたばかりで記憶がない等々”

古田知事は著名人であり、その後の半生は堂々とされ新聞等マスメディアでもよく取り上げられ知られていますが、国体開催中その時最も輝いていた古田以降46名の最終ランナーはどのようなその後を辿っているか調べることが出来れば興味深いものがあります。

岐阜北R. Cさんは1982年昭和57年6月30日に創立され昨年度30周年でしたが、ちなみに岐阜長良川R. Cは国体があった昭和40年9月27日に創立総会を行っています。まさに本日満47歳になりました。記念日です。歴史ある両クラブの今後益々のご隆盛と、本日もご参席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 出席報告

会員数：30名

出席数：18/30名

出席率：60.00%

欠席者：12名（出席免除8名 86.67%）

## ニコニコBOX (敬称略)

谷田 育子：本日の合同例会よろしくお願ひします。

原尾 勝：本日は長良川RCとの合同例会です。皆様よろしくお願ひします。

片桐順一郎、前田吉彦、久世亘、国井省二、岡田一二三、波多野光裕：合同例会に参加して

山口 八郎：合同例会よろしく

森本 時夫：やっと秋が来たようですね。

竹村 博之：校下の敬老会で、金婚の記念品を頂きました。

## 卓話



I. 10分間スピーチ  
岐阜長良川R.C 正木 進 会員

本日、岐阜北クラブと岐阜長良川クラブとの合同例会おめでとうございます。

私は岐阜長良川クラブの正木進であります。クラブ在籍43年であります。合同例会の挨拶に立ちましたのは、北クラブ設立委員として残っている会員としては、井戸先生と私の2名しかいないからであります。そして、北クラブ設立総会は昭和57年6月30日長良館において、厳粛に実施されました。

1.  
創立総会まで、昭和55年より2年間準備を進めました。特別代表に白木光雄先生が、設立準備委員会のメンバーは、当時長良川クラブ岸野憲逸会長をはじめとした役員一同でした。特別代表の補佐役として、クラブの基本を作る作業に、後藤博三郎さん・篠田喜保さん・私正木進の3名が指名されました。定款・細則・会計・年次計画・新会員の選考等々基本骨子を作成させていただきました。

以来、本年岐阜北クラブ発足31期、その間に素晴らしい実績を積み重ねました。

2630地区の雄として頑張っておられる姿に深く敬意を表します。岐阜北クラブの最近の主

## 卓話 I 続き

たる業績について、竹村博之さんと対談しました。

- ・10周年で、岐阜三田高校にインター・アクトクラブ設立。そして、岐阜市北西部小・中学校のスポーツ少年団のバレーボール大会に毎年岐阜北RC杯を贈られている。
- ・20周年で、市民会館にて音楽コンサートに400名招待された。
- ・25周年に、鶺鴒乗船場付近の大型案内板を岐阜市に寄贈された。
- ・30周年は、東日本大震災へ、合計300万円の義捐金を寄付された。  
岐阜北クラブを支えてこられた苅谷二郎様をはじめとするチャーターメンバーで現会員6名の方々には深く敬意を表します。

2.  
長良川クラブは、本年48期であります。昨年47期は東日本大震災が起こり、50万円の義捐金と共に石巻南クラブとの交流が始まりました。「石巻に桜を咲かせよう運動」を提唱し、30本の桜を石巻に植樹しました。石巻南クラブの幹事よりの礼状に、「桜の寄贈はもちろんうれしいが、それ以上に応援してくれる気持ちに勇気をもらいました。」

と感謝の一文がありました。長良川クラブの全会員の心が一つになって行動ができたことで、石巻桜植樹の成功を喜び合いました。

45期は、長良公園にモニュメント型時計塔を会員企業各社の技術を生かし、手作りで完成できた喜びは大なるものであります。市長に直接現地において贈呈いたしました。

38~40期にかけて、ミャンマーで水不足に協力すべく井戸掘削事業を実施し国際貢献ができましたことに感謝いたします。

遡って、10周年記念事業には長良雄総堤の桜を復活すべく植樹をしました。爾来38年を経ましたが、毎年実に素晴らしい桜並木ができ、満開の季節には大変な賑わいで

市民の憩いの場として喜ばれております。長良川クラブを支えてこられたチャーターメンバーで、1人現会員でおられる井戸豊彦様に深い敬意を表します。

3.  
村橋ガバナーは、クラブサポートの強化としてクラブ活性化を提唱しておられます。時代に適合した活動基盤の増強・維持は会員増強の一つといわれます。石井直前ガバナーも世界が望んでいる変化に対応しようと提唱されました。村橋ガバナーの施策の柱は、

- ・組織運営のスピード化
- ・スリム化

## 卓話Ⅰ 続き

- ・人道的奉仕の重点化
- ・公共イメージとロータリークラブの認知度を高める
- ・CLP導入の検討

です。本年はクラブ・リーダーシップ・プランの推進年度です。CLP導入研究のプロジェクトを作ろう。R1107年の歴史の中でも大きな改革であろうと思います。効果的なクラブ運営のために長良川クラブでまとめた目標は、

- ・会員減少が続くなかでの委員会構成の研究
- ・活動の継続性を高める委員会構成の研究
- ・会員全員参加型の組織運営の研究

であります。次回の岐阜北クラブ・長良川クラブ合同例会には、CLP導入の経過報告ができることを提唱します。

ここに両クラブのますますのご繁栄を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。

## 卓話Ⅱ 続き

何をする団体なのかも分からないながら、大変不安を持って入会をしました。

最初の発会式に出席したら28名の初参加の仲間があり少しは気が楽になりました。また当日はRCの役員の皆様からRCの歴史や概要についてのお話がありました。しかし実際に何をやるのかは皆目分かりませんでした。ただ、毎週水曜日に例会があり出席することが義務であることが理解できたくらいでした。そして7月に入り例会が始まり、10月の例会まで毎週の例会に親クラブである長良川RCの各委員会の委員長さんに来て頂いて、その委員会の役割や活動仕事内容を事細かに説明して頂き、RCの内容が少しずつ理解できました。このような長良川クラブの皆さんのご指導のおかげで、北クラブとして30年間、正木さんが話されたような活動が出来たのではないかと思います。感謝をしております。ありがとうございました。

今後ともよろしくご指導のほどをお願いいたします。

## 卓話



Ⅱ. 10分間スピーチ  
岐阜北R. C 竹村 博之 会員

私共の岐阜北RCは30年前1982年親クラブである長良川RCの子クラブとして創立されました。当時最初の会員は28名でしたが、その年の9月15日に13名の新会員をお迎えして、総勢41名で認証状伝達式（チャーターナイト）を行いました。その後、第11期には69名の会員となりましたが、それからは毎期会員が減少し、現在の在籍者は30名であります。その中で第1期からの在籍者は私を含めて7名になり、私は年齢順では4番目に古い会員になってしまいました。

30年前のことを思い出して見ますと、今お話を頂いた正木さんから、今度新しいRCを作ることになったので推薦しておいたので入会をして下さいと言われ、RCがどういうものか、

## 閉会挨拶【岐阜北RC 谷田 育子 会長】



皆様、こんばんは

今日は昨年に続き、第2回目の合同例会となりました。久方ぶりにお会いする方々のお顔を拝見しながら、昨年の事を思い起こしております。先ほどから長良川ロータリークラブの正木様に、両クラブの設立当初からの歴史などお話頂きましてありがとうございました。又、私共岐阜北ロータリークラブの竹村様には、設立についてのエピソードや実務など、親クラブの指導のもとに、立ちあがりの7月から半期程の間は、例会開催日には必ず親クラブの委員長様などが、出席されての日々であった事など、お話頂きありがとうございました。

私共の岐阜北RCは、その設立の昭和57年から、昨年で30周年を迎える事となり、記念事業のために基金を設け、かなりの予算で実施

## 閉会挨拶 続き

の予定でしたが、2011年3月11日の東北大震災が起き、義捐金として、200万円をRCガバナー会経由で寄付をしました。又、会員全てより募った100万円を岐阜新聞経由の義援金に拠出しました。そのため、行事らしきものは何もしなかったのですが、せめて、30年の記録にという事で、波多野前期会長と、役員の方々に、この冊子、「30年を振り返って」が出来ています。私共岐阜北ロータリークラブの歩みを記したささやかなものですが、もし、ご希望の方がおられましたら、事務局の方に何部かは、あるかと思しますので、お読みになって頂きたいと思えます。

最後に、本日の合同例会をセッティングして頂きました両クラブの幹事様や関係者の方々に深くお礼を申し上げ、私の閉会の挨拶とさせていただきます。

## 懇親会挨拶【岐阜北RC 谷田 育子 会長】

先ほどの合同例会には相互の設立当初の歴史や思い出を中心にした話題で私共後期の会員では知る事の出来ないお話を聞く事が出来、貴重な時間となりました。

これからの時間は岐阜北ロータリークラブ誕生に大変お世話になりました親クラブである岐阜長川ロータリークラブとの両者が更に進行を深めるためのより良い時間とさせて頂きたいと思えます。

先ほどお願い事を忘れましたので、ここで親クラブの方々に是非ともお願いですが、私共のクラブは、会員数が30名になってしまい、若手の会員増強委員長を始めとして全会員が新入会員の入会に一生懸命活躍しています。そこでロータリーの友情と親クラブの愛情でもって、ロータリー入会希望者が有れば、ご自分のクラブより子クラブである岐阜北ロータリークラブへ是非とも案内して頂けたら、何よりも嬉しい事と思えます。こんなお願いをしまして懇親会の挨拶とさせていただきます。



## 次回例会のご案内

第1465回 例会 10月7日(日)  
氷見RCとの合同例会  
於：氷見 「うみあかり」

担当者：親睦交流委員会

会報・広報 9月担当 波多野 光裕